

令和5年度 学力向上指導改善プラン

三田市立ゆりのき台中学校長 南波 克典

学校教育目標		「命」と「心」を大切に、「夢」を描き、輝かしい「未来」に向け前進する生徒の育成		4月		2～3月	
推進主体		研究推進委員会		学力向上に向けての重点的な目標		年度末評価	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)		(成果目標達成のための具体的な手立て等)	
						(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
						評価	
学 力 の 状 況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	<ul style="list-style-type: none"> 「表現技法の名称を書き、同じ技法が使われているものを選択する」という設問では、全国平均を20.8ポイント上回った。表現技法についてよく理解できている。 「行書の特徴を理解する」問題について、全国の前年度より3.7ポイント上回っているが正答率が43.1%となっている。基本的な理解に課題があると考えられる。 	社会的自立に向けたキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「将来の夢や目標を持っている」と答える生徒の割合：全国学力・学習状況調査 ⇒80% 「キャリア教育・進路指導」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート ⇒生徒80% 保護者80% 以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校教育目標にある「夢」を描く」ということの大切さを、あらゆる場面で生徒に語っていく。 「トライやる・ウィーク(2年)」の事前の保護者アンケートでは、職業に対する話を家庭でもらう取り組みが入っていた。生徒たちが職業観を身近な大人から聞き取ることで、具体的な夢につながっていくのではないかと。 校内キャリア教育推進体制の強化と、高校や小学校といった校区内異校種間の連携体制の整備を図る。 ・節目節目に記入する、キャリアパスポートの活用を推進する。中学校卒業後も振り返りに活用する意識づけをする。 	
		算数	<ul style="list-style-type: none"> 【数学】 「数と式」の領域の「簡単な連立二元一次方程式を解くことができる」を問う問題では正答率が84.3%で、全国平均を10ポイント上回っており、無回答もほとんどないことから、方程式を解く技術が身につけていると考えられる。 ◆データの傾向を確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。 	ICT機器を活用して生徒たちの主体的な活動を引き出す授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> 「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、ICT機器をどの程度使っていますか」の回答がほぼ毎日とする割合が、前年度を上回る。 ・ミラシードを活用した協働的な学習の充実、情報の整理等を学習に位置付ける。ICT機器を活用して思考の可視化をする。 ・ミラシードの「ドリルパーク」を活用し、生徒の学習の定着状況に応じた個別最適化された学習の充実を図る。 		
	ICT機器を効果的に活用した取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 【生徒質問紙調査】 「ICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と考えている生徒の比率が高い。 ◆「個別最適な学び」「協働的な学び」のためのツールとしてのICT活用が全国と比較して進んでいない状況にある。 	「変化の激しい時代を生き抜く力」を育む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「特色ある学校づくり」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート ⇒生徒70% 保護者70% 以上 ・タブレットなどICT機器を活用した授業を行った教員の割合 ⇒90% 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教事前から、12年間を見通した教育を推進するため、小中高連携を図る。 ・タブレットの使用等ICTを活用した学習活動をおとして、情報活用能力の育成を図る。 ・伝統や文化に関する教育を推進し、特色ある学校づくりに努める。 		
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ◆生徒たちは各自でしっかりと、目標を定めて取り組んでいる。 ◆学校評価アンケートに、定期考査の難易度が高すぎるとの回答が見られた。指導と評価の一体化についての研究が課題である。 	主体的に学ぶ子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> 「学校教育目標の達成」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート ⇒生徒80% 保護者80% 以上 ・「読書が好き」と答える生徒の割合：全国学力・学習状況調査 ⇒70% 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会を中心に、全国学力・学習状況調査等を活用し、学力向上に努める。 ・朝読書、朝学習、がんばりタイム、タブレット端末の活用等により一人一人の豊かな学力の育成を図る。 ・「さだかな子読書通帳」の活用により、小学校時代から続ける読書活動の充実を図る。 		
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ◆総じて落ち着いた授業態度である。 ◆「主体的・対話的で深い学び」の深化を図るための更なる研究が必要である。 ◆一人一台タブレット端末が支給されている。このICT機器を上手に活用して、主体的に学ぶ力を育成する研究が必要である。 	育ちと学びをつなぐ教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「開かれた学校づくり」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート ⇒生徒80% 保護者80% 以上 ・ゆりのき台中学校区学校園各種「連絡会」「研修会」の開催回数 ⇒計10回 以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「開かれた学校づくり」に対する肯定的回答の割合：学校評価アンケート ⇒生徒80% 保護者80% 以上 ・「個別最適な学びをめざしたICT教育」をテーマに、研究に取り組む。 ・週に一回程度の頻度でミラシードを活用する教員の割合 ⇒50% ・2学期から授業公開期間を設ける。 		
	学習習慣・向上生活に習熟する等学習	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆学習に対して非常に意欲が高い生徒、自分で計画を立て、長時間学習に励んでいる生徒の比率が高い。 ◆学習にICT機器を使うことで効果があると思っている生徒の比率が高く、普段からICT機器を使用している生徒の比率も高い。 	校 内 研 究 ・ 研 修	<ul style="list-style-type: none"> ◆「学習指導」(学校評価アンケート)についての肯定的評価が、生徒は90.7%となっているが、保護者は80.7%と差がある。 ◆住んでいる地域の行事への参加がすくないという課題がある。コロナ禍がすぎ交流の場を設けることが増える。今後も、トライやるウィークをはじめとした学校行事や生徒会活動を通じ、積極的に地域との交流の機会をつつていく。 	家庭・地域との状況	
校 内 研 究 ・ 研 修	校内研究の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆「個別最適な学びをめざしたICT教育」をテーマにタブレット端末を活用した授業づくりについて研究を推進している。 ◆「防災教育」「特色ある学校づくり」が課題である。 	家 庭 ・ 携 校 種 間	<ul style="list-style-type: none"> ◆通常の研修に加え、タブレット端末を活用した主体的・対話的で深い学び実現のためのグループでの研修を推進する。 	小・中における教科連携等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆小・中の教科ごとの連携から、キャリア教育と道徳教育を軸とした、系統性を重視したカリキュラム連携への発展を目指す。 	